

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2025年 第5週（1月27日～2月2日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 増加」

第5週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,217例であり、前週比12.3%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎、伝染性紅斑の順で、定点あたり報告数はそれぞれ7.25、1.73、1.51、0.31、0.23である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比20%増の1,400例で、南河内10.31、泉州8.75、北河内8.16、中河内7.68、大阪市南部7.50であった。

RSウイルス感染症は7%増の333例で、大阪市北部2.77、南河内2.63、泉州2.40である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週と同数の292例で、大阪市南部2.89、堺市2.63、北河内1.96であった。

流行性角結膜炎は23%増の16例で、中河内1.40、大阪市南部0.75、三島0.50である。

伝染性紅斑は7%増の45例で、北河内0.44、三島0.41、大阪市北部0.38であった。

インフルエンザは50%減の1,005例で、定点あたり報告数は3.34である。南河内5.04、堺市4.66、中河内4.07、北河内3.66、泉州3.36であった。

新型コロナウイルス感染症は12%増の1,293例で、定点あたり報告数は4.30である。南河内5.83、北河内5.66、中河内4.60、泉州4.58、堺市4.31であった。0歳から19歳までの報告数は644例で、全体の50%を占めた。

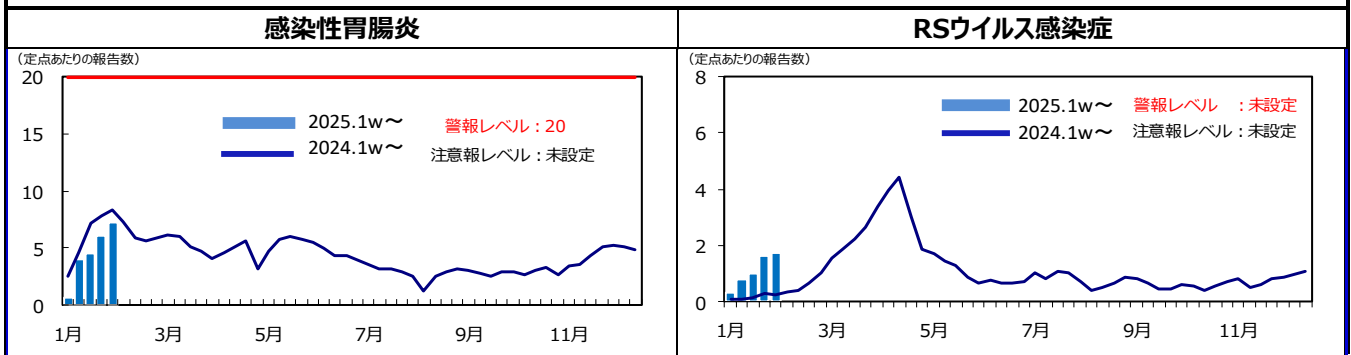


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2025年 第5週1月27日～2月2日）

第5週の順位	第4週の順位	感染症	2025年 第5週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2024年 第5週の 定点あたり 報告数	2025年第5週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	7.25	20%増	8.31	10-14歳_13%
2	2	RSウイルス感染症	1.73	7%増	0.26	1歳未満_1歳_30%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.51	増減なし	4.13	10-14歳_20%
4	5	流行性角結膜炎	0.31	23%増	0.27	20歳以上_75%
5	6	伝染性紅斑	0.23	7%増	0.01	3歳_24%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	3.34	50%減	29.64	20歳以上_25%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	4.30	12%増	9.36	10-19歳_18%

詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症患者の発生状況について(大阪府)』の情報をご覧ください。

詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症(大阪府感染症情報センター)』の情報をご覧ください。

第5週のコメント

～侵襲性髄膜炎菌感染症～ 大阪府の2024年の年間報告数は11例で、現行の集計方法となった2013年以降で最も多い報告数であった

全数把握感染症																																		
侵襲性髄膜炎菌感染症																																		
<p>侵襲性髄膜炎菌感染症は、髄膜炎菌 (<i>Neisseria meningitidis</i>) による侵襲性の感染症である。咳やくしゃみなどによる飛沫感染により、ヒトからヒトへ伝播する。潜伏期は通常2～10日で、髄膜炎例では頭痛、発熱、髄膜刺激症状、痙攣、意識障害を示し、敗血症例では発熱、悪寒、ショック、播種性血管内凝固症候群 (DIC) を呈する。髄膜炎ベルト (meningitis belt) とよばれるアフリカ中央部で発生が多く、日本では、学生寮等で集団発生の報告がある。治療には、第三世代セフェム系抗菌薬等が使用される。患者との接触者には、緊急に、リファンピシン等の曝露後予防対応が行われる。日本では、2015年より、4価髄膜炎菌 (血清型A、C、Y、W-135) ワクチンの任意接種が開始されている。</p> <p>大阪府内で侵襲性髄膜炎菌感染症患者が増加しています！ (大阪健康安全基盤研究所)</p> <p>髄膜炎菌性髄膜炎とは (国立感染症研究所)</p>	<p>年別累積報告数 大阪府は2025年第5週現在 全国は2025年第4週現在</p> <table border="1"> <caption>年別累積報告数 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>大阪府累計</th> <th>全国累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2016</td><td>3</td><td>10</td></tr> <tr><td>2017</td><td>3</td><td>6</td></tr> <tr><td>2018</td><td>4</td><td>10</td></tr> <tr><td>2019</td><td>7</td><td>45</td></tr> <tr><td>2020</td><td>3</td><td>15</td></tr> <tr><td>2021</td><td>1</td><td>5</td></tr> <tr><td>2022</td><td>1</td><td>10</td></tr> <tr><td>2023</td><td>3</td><td>25</td></tr> <tr><td>2024</td><td>11</td><td>70</td></tr> <tr><td>2025</td><td>2</td><td>15</td></tr> </tbody> </table>	年	大阪府累計	全国累計	2016	3	10	2017	3	6	2018	4	10	2019	7	45	2020	3	15	2021	1	5	2022	1	10	2023	3	25	2024	11	70	2025	2	15
年	大阪府累計	全国累計																																
2016	3	10																																
2017	3	6																																
2018	4	10																																
2019	7	45																																
2020	3	15																																
2021	1	5																																
2022	1	10																																
2023	3	25																																
2024	11	70																																
2025	2	15																																

表2. 大阪府全数報告数 (2025年 第5週1月27日～2月2日)

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村							府内累積報告数
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	
4類感染症	チクングニア熱	1							1	1
	デング熱	1							1	2
5類感染症	アメーバ赤痢	1							1	3
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1							1	8
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	2						1	23
	後天性免疫不全症候群	1	1							11
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1							1	9
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1			1					2
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	1	1	1				2	57
	水痘 (入院例)	1	1							1
	梅毒	14	1		1		1	2	2	7
百日咳	19	1	1	4	2			7	4	69
結核 (2024年12月分)	結核 新登録患者数：73名		(内 肺・喀痰塗抹陽性 23名) (府内累積報告数 1,118名、内 肺・喀痰塗抹陽性 423名)							

(2025年2月4日 集計分)